

<スライド1>

平成32年度インターハイ開催経費確保に向け、全国高体連として取り組む「2020インターハイ特別基金」制度について、高体連加入・登録生徒を対象とした基金を説明するためのプレゼンテーション資料です。

実際の説明は、以下のスライドから

<スライド2>

これから平成32年度（2020年度）インターハイの開催経費の確保に向けて、全国高体連が取り組む「2020インターハイ特別基金」制度について説明します。

<スライド3>

皆さんご存知のとおり、平成32年（2020年）には「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されます。

皆さんの中からも、ぜひこのオリンピックに選手として出場し、活躍してくれることを期待しています。また、オリンピック・パラリンピックのスタッフとして直接かかわることになる人もいます。

選手をはじめ、世界中から来日する人たちを「おもてなし」の心でお迎えしましょう。

<スライド4>

ところが、オリンピック・パラリンピックとインターハイの開催期間が重なってしまい、平成32年度のインターハイは例年の日程での開催ができなくなりました。

また、インターハイは決められたローテーションによって全国各ブロックで開催されており、平成32年度は北関東4県で開催される予定でした。オリンピック・パラリンピックの開催地である東京に近い北関東では、例年のように宿舎を確保することが難しいことなどの理由から、インターハイの30競技全てを開催することができなくなりました。

<スライド5>

様々な問題を検討した結果、平成32年度インターハイは、8月10日～24日の期間に北関東4県で11競技、残りの19競技を北関東以外の全国都道府県で分散して開催することとしました。

<スライド6>

先ほども説明しましたように、インターハイは決められたローテーションによる開催地で開催されてきました。隣の県などでの分散開催はこれまでもありましたが、今回のように、全国を対象とした大規模な分散開催の候補地探しは初めてのことで、開催候補地の確保のための調整が難航しています。

<スライド7>

さらに、インターハイを開催するための経費は開会式を除き、総額約12億円ほどかかっています。競技別の経費は競技により大きく異なりますが、1競技あたり平均すると約4千万円が必要となります。

例年のインターハイでは、その開催経費の7～8割を開催地の都道府県や市町村に負担をしていただいています。

しかし、平成32年度のインターハイは通常のローテーションとは異なる緊急例外的な大会となるため、開催地からの経費負担が非常に厳しい状況です。そのため、その開催経費を全国高体連として確保する必要がでてきました。

<スライド8>

現在、分散開催19競技の開催候補地の確保に向けた様々な取り組みを行っていますが、調整は難航しています。このまま開催候補地の確保ができないと、平成32年度のインターハイで開催できない競技が出てくる可能性も考えられます。

全30競技を中止せずに開催するため、全国高体連として開催経費を確保することにより、各都道府県に開催を受け入れていただこうと考えています。

<スライド9>

この全国高体連として開催経費を確保する方法として、「2020 インターハイ特別基金」制度を立ち上げ、運動部で日々活動しインターハイを目指している皆さんに特別基金のお願いをすることにしました。

ただし、運動部活動のうち、この基金をお願いするのは、夏のインターハイで開催される30競技の部活動となります。スキー・スケートやラグビーなど冬のインターハイの競技に属する部員は含まれません。また、野球などはインターハイの開催競技ではないため、同様です。

<スライド10>

「2020 インターハイ特別基金」は、皆さんのような運動部で活動している高校生だけでなく、広く呼びかけをして協力をお願いします。

呼びかけの対象として、運動部のOB・OG、保護者や一般市民の皆様、そして企業や法人・団体等を考えています。また、夏のインターハイ開催の30競技以外の運動部や文化部の高校生も対象とします。

現在、こちらの対象の方々への準備を進めており、準備が整い次第協力をお願いする予定です。

<スライド11>

高校生の皆さんには、この特別基金の趣旨に賛同いただければ、1人1口100円程度を目安に基金への協力をお願いできればと思います。

なお、この特別基金への協力は強制ではありません。皆さんの意思と自主的な判断により協力をお願いするものです。

<スライド12>

特別基金にご協力いただける方は、各学校・部活動ごとに基金をとりまとめ、各都道府県高体連専門部から配布される赤色で印刷された「払込取扱票」で振込をお願いします。

なお、現金を扱うこととなりますので、盗難等の事故にあわないよう管理については十分留意してください。

<スライド 13>

これが、配布される払込取扱票です。各学校、各部活動ごとに配布されます。

<スライド 14>

払込取扱票の記入については、記入例を参考にして下さい。記入例は全国高体連のホームページにも掲載します。

学校コードは、大学入試センターの高等学校等コード表に記載のコードを記入してください。コード表は大学入試センターのホームページに掲載されています。また、全国高体連のホームページからもリンクできます。各学校の進路指導部から教えてもらうこともできます。

部活動コードは、特別基金の趣意書の裏面の募集要項の表を参照してください。

<スライド 15>

配布される振込取扱票による振込みは、ゆうちょ銀行の窓口又はATMでお願いします。この赤色の払込取扱票での振込みは、振込手数料がかかりません。

振込をすると振込取扱票の右側にある「振替払込請求書兼受領証」が領収書として渡されます。

<スライド 16>

特別基金は、平成 32 年度インターハイが開催される年の 6 月までの期間で、目標額を 7 億円としております。集まった基金は全て平成 32 年度インターハイ開催地の都道府県・市町村の開催経費として充当します。

平成 32 年度のインターハイの 30 競技全てが、中止せずに開催できるよう、皆さんには趣旨にご賛同いただき協力をぜひお願いします。